



SISTER CITIES NEWS

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship Association of Ibaraki

Vol.82 2024.9.30

茨木市国際親善都市協会



マラソンスタート前の集合写真。左から、福岡市長、川内優輝選手、茨木市民ランナーの皆様、長谷川議長。

CONTENTS — 目 次 —

- 茨木から世界へ：アメリカ留学体験記 2
- 2024 小豆島オーリーブマラソン全国大会が開催されました！ 3
- 一般社団法人茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業基金 4
- 英語俳句コンテストを開催しました！ 6
- 通訳ボランティア制度・各活動団体を紹介します！ 7
- 茨木市国際親善都市協会のホームページをご覧ください！、MINNIBARAKIに記事を投稿してみませんか？ 8



茨木から世界へ：アメリカ留学体験記



2017 年に一般社団法人 茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業基金を活用した大阪府立春日丘高等学校の「第 10 回ミネアポリス派遣研修プログラム」に参加し、ミネアポリス市を訪れたことをきっかけに、その後海外留学された橋本龍人さん。現在はミネソタ州立大学マンケート校に所属されています。今回、茨木市の中学生・高校生の皆様に海外留学に興味を持っていただきたいとの思いから、本誌にご寄稿いただきました。

中学時代に閉鎖的な日本の学校や授業環境に悩み、茨木市内の大阪府立春日丘高校へ進学し、自由な校風の中で学ぶことを選びました。高校 1 年生の時に、茨木市とミネアポリス市の国際交流事業に参加し、ホームステイや現地の大学ツアー・授業を経験しました。日本の大学とは違う本格的・実践的な学習環境に感動し、アメリカへの進学を考えるきっかけになりました。

高校卒業後は、アメリカ・ミネソタ州ホワイトベアーレイク市にあるセンチュリーカレッジに進学しました。アットホームな自然に囲まれたキャンパスで、100 以上の専攻・プログラムがあります。教授と生徒との距離感が近いことも特徴です。2 年生の時に取った英文学の先生は、今でも第二のお母さんとして家族ぐるみの付き合いが続いており、よく家で昼食をご馳走していただきます。



センチュリーカレッジ



先生と橋本さん（一番右）

また、この時には英語教養の先生から英論文のスキルを見込まれ、アカデミックライティングのチューターを経験しました。初めは自分がアジア人（アメリカでは、アジア圏の人の英語に対して偏見がある）で、しかも留学生であることから、生徒さんとの信頼関係を築くことに苦労しました。しかし、様々な社会的アイデンティティやバックグラウンドを持った生徒に教える経験を通じて、教育の分野を志すようになりました。

ミネソタ州立大学システムのトランスファー制度を活用し、ミネソタ州立大学マンケート校へ大学 3 年生として編入しました。学部時代には多文化教育の研究に従事し、学部研究助手として活動しました。指導教授とは新入生・編入生オリエンテーションで登壇されていたところに伺い、この時はこれ以降 3 年間お世話になるとは思いませんでした。偶然の出会い・繋がりをどれだけ大切にできるかが海外留学では重要です。

学部 4 年生時には学部研究の国際学会である World Congress on Undergraduate Research でプレゼンテーションを行いました。同年に共著論文「Impact of Two Courses on Intercultural Competence on Undergraduate Students」(2023) を国際査読付ジャーナルにて出版しました。現在は大学院生として同大学の大学院社会学部大学教育学科に在籍しています。大学で多文化教育のクラスを教えている傍ら、高校での学習環境・経験が大学教育に与える影響について研究しています。

茨木市がくれた素敵なご縁。茨木市の高校から世界へ羽ばたく高校生が増えることを願っています！



プレゼンテーションの様子

2024小豆島オリーブマラソン全国大会開催

令和6年5月19日（日）に小豆島オリーブマラソン全国大会が開催され、本協会からの募集で4名の方がエントリーされました。

大会当日は小雨がぱらついていましたが、マラソンには適した涼しい気温で、全国各地から集まった皆様で会場は和気あいあいとしておりました。「公務員ランナー」として名を馳せた、今回のゲストランナーでもある川内優輝選手がちょうどその場にいらっしやり、福岡市長、長谷川議長、茨木市民ランナーの皆様との集合写真にご参加いただきました（表紙写真）。

姉妹都市紹介として茨木市も紹介いただき、福岡市長、長谷川議長が登壇されました。

10kmロードレーススターターを福岡市長が務められ、スタートしたランナーの皆様には手を振り声援を送ってられました。



小豆島町の姉妹都市、茨木市と南島原市の紹介



スタート直前の様子

朝から降り始めた小雨がランナーの皆様にとってはちょうどミストのようになり、良いコンディションで走ることができたようです。「昨年度は暑すぎて何度か立ち止まったり、歩いたりしたが、今年はゴールまで走り続けることができたので嬉しい」、「涼しくて走りやすかった」というような声を会場のあちらこちらで耳にしました。

今年は閉会式で川内選手とのじゃんけん大会や、来賓による「もちまき」が行われ、大会は最後まで盛り上がりました。

また、茨木市民ランナーの皆様のために、小豆島町職員の方々が会場付近の公民館内に控室をご用意くださり、様々なサポートをしてくださいました。

まだ小豆島町を訪れたことのない皆様も、訪れたことのある皆様も、ぜひ来年は多くの協会の皆様に小豆島オリーブマラソンにご参加いただき、姉妹都市小豆島町の魅力を感じていただきたいと思います。（当協会事務局）



もちまきの様子

一般社団法人 茨木カンツリー倶楽部

青少年国際交流助成事業基金

当基金では、茨木市国際親善都市協会主催・共催事業や海外や国内外姉妹都市等でのスポーツ・文化交流に参加する市内の青少年（満24歳以下）または青少年団体などに助成しています。

本助成金制度を利用され、海外に行かれた方々の参加者報告を掲載します。

参加者報告

大阪府立春日丘高等学校

私たちは7月29日～8月8日の間、オーストラリアのパーズへ夏の語学研修に行き、John XXIII Collegeという現地の学校に通学しました。一番印象的だったのは、現地校の文化祭でソーラン節を披露したことです。舞台上上がると、会場からは大声援。そして現地校の生徒たちが曲に合わせて「ドッコイショードッコイショー!」「ソーランソーラン!」と合いの手を入れてくれました。まるでアーティストのライブのような熱気に包まれ、感動で涙を流す生徒もいたほどです。最終日には、全員が「帰りたくない!」と口を揃え、バディやホストファミリーとなかなか離れようとしません。バスに乗せるのも一苦労です。ようやく出発したバスの中では、みな口々に新たな夢や目標を熱く語り合っていました。その姿を見ながら、こんな短期間でもここまで意識や考え方が変わるのかと、海外の文化に「実際に」触れることの意義を感じました。

(引率 川口 亜里沙)



初めは飛行機のことや私の言葉が伝わらなかったらどうしようと、とても緊張しました。でもそんな不安を忘れ吹き飛ばすほど楽しく、学びある留学になったと思います。現地校のバディたちやユースリーダーの方々はもちろん、ホストファミリーがすごくウェルカムな雰囲気、間違ってもいいからたくさん話したいと思えました。特に、私はバディやその友達とたくさん話せたので、お別れのときは泣いてしまいました。とても1週間とは思えない思い出が詰まった時間を過ごすことができました。オーストラリアに限らずこれからたくさんの国、地域に行ってみたいです。

(1年 山本 知佳)

現地に着くまでは謎の自信があり、余裕でコミュニケーションがとれると思っていました。しかし、実際はそんなことはなく、初日は全く英語が聞こえなかったし、用意してきた言葉も言えなかったことの方が断然多かったです。でも、現地の人はずごくフレンドリーで優しい人ばかりでした。私たちにすごく興味を持ってきて、笑顔で接してくれて、伝わるようにゆっくり喋ってくれて、ホストファミリーは私たちのためにご飯や放課後や休日の予定をたくさん考えてくれて、ほんとうに嬉しく、楽しいことばかりでした。街並みも人も言語も文化も違う国だけど、毎日が貴重な経験でこの研修は私の一生の宝になりました。(2年 池田 結咲)



大阪府立茨木高等学校

コロナ禍以前まで茨木高校の修学旅行は海外で行われていました。中学生の頃から海外に興味のあった私にとって茨木高校を志望する最も大きな動機だったように思いますが、諸般の事情から修学旅行は国内となってしまいました。しかしどうしても海外に行きたいという気持ちがあり、私はこの研修への参加を決めました。

研修中はNUS（シンガポール国立大学）でSDGsやSTEMにまつわる講義を受けたり、現地企業の訪問や観光をしたりしました。スーパーマーケットに行ったり公共交通機関を使ったりすることで、現地の人々の生活にも触れられました。中でも印象に残っているのは、アラブストリートやチャイナタウンで通りすがりの人に「シンガポールのいいところ」「日本の印象はどうか」などのインタビューを行ったことです。突然声をかけたのにも関わらず、嫌な顔一つせず私達の質問に応じてくださり嬉しかったです。また、英語を話すことにそれほど構える必要はないのだと気づくことができました。その翌日には多くのメンバーがNUSの学生に自分から声をかけ、カフェテリアで相席していました。私もその日一緒にご飯を食べた方とは連絡先を交換し、今でもメッセージをやりとりしています。今回参加したのは学年もクラスも違う23人でしたが、6日間の海外生活を通してとても仲良くなることができました。積極的に英語を使おうとする姿、苦手なことにも一生懸命取り組む姿。それらを共有した23人は、互いに尊敬し合える大切な仲間です。

私は来年の春、オーストラリアに3週間留学します。海外研修とは違って一人での海外生活になります。不安もあるけれどきっと大丈夫。そう思わせてくれるのは紛れもなくこの研修を通して得た経験です。（2年 川井 咲季）



シンガポールにて

WORLDWINGS

今回の遠征を通して、私の中で大きく変化したことは、海外は思っていたより身近であったということです。

ハワイにはずっと憧れを持っており、人生で一度は訪れてみたいと思っていました。実際にハワイは、何よりも海や太陽が想像以上に綺麗で、空気がおいしくて、街には大きくて高い木がたくさん生えていて、建物の外観もオシャレで、街を歩く人みんなが笑顔でした。そんな素敵な場所で大好きなダンスを踊ることができて、本当に感謝の思いでいっぱいです。

これから、私はこの経験を活かせるよう、大好きなダンスをもっともっと頑張り、世界中の人に笑顔と希望の舞を届けます。素敵な世界をみることができ、この経験は私の宝です。本当にありがとうございました。（速水 蘭）

私はこのハワイ遠征で海外交流の経験を得ることができ、イベントで踊る楽しさを感じることができました。

海外交流ではハワイのダンスチームと一緒に練習をし、レベルの高さに圧倒されました。演技を見て柔軟性や筋力があるから綺麗に美しく踊れるんだと思いました。なので私も美しく踊りを見せられるように、柔軟や筋トレを行いたいです。また英語でもっと交流できるように勉強も頑張りたいです。

イベントの演技では、2回とも本番でドロップしてしまいました。緊張した時におとさないように一つ一つの技の練習を増やしたいです。人がたくさんいて緊張しましたが、楽しそうに見ているお客さんがいて私も楽しく踊ることができました。

2度もハワイに行かしてくれた両親に感謝し、ハワイ遠征での経験を今後に活かし、自分の目標に向かって努力を続けていきたいです。（佐々木 菜那）



ハワイにて

一般社団法人 茨木カンツリー倶楽部 青少年国際交流助成事業助成金基準

協会外事業【ミネアポリス・安慶市への訪問】助成限度人数40人（個人/団体）

ミネアポリス市：1人あたり 30,000円、安慶市：1人あたり 20,000円

協会外事業【姉妹友好都市以外への訪問】助成限度人数20人（個人/団体）

アジア地域外：1人あたり20,000円以内、アジア地域：15,000円以内（基準表より抜粋）

英語俳句コンテスト

毎年、ミネアポリス市から作品を募集している英語俳句コンテストに今回もたくさんの応募がありました♪今回のお題は「FRIEND (友達)」です。各部門の1位に選ばれた作品を紹介します！

◆総評

茨木市の国際親善都市であるミネアポリスと茨木市の英語ハイクによる交流は1992年から続き、32年にもなる行事です。第一回の作品は、英語ハイク・タンカで総数34句でしたが、今回は総数106句になりました。

今回の課題であるFRIEND (友達) では、この課題をいかにハイクとして成り立たせるかが大きなポイントです。つまり①どんな風に自然や季節感を加えるか②FRIENDというメッセージ性、プロパガンダから離れて、いかに詩的に作れるかです。また今回は、自然や自然感を入れたいいわゆる①の有季の俳句と、②の無季の俳句にも注目しました。 吉村 侑久代*

幼稚園・小学生の部 1位 Gisela Diehlさん

(原 文) I love nature sounds
Leaves whisper a nice hello
like my secret friend

(日本語訳) 自然の音が大好き
木の葉が「こんにちは」と
秘密の友達のようにささやく

講評

作者は自然の音が大好き。音も囁きも秘密の友達との会話も浮かび上がります。さらに創作の手順がとても上手です。創作の「序破急」をハイクに取り入れているところが驚きであり、感性豊かな作品となりました。自然と人の気持ちが上手く組み合わせられています。

中学生の部 1位 Sullivan Cooperさん

(原 文) Friends are like flowers.
Although some may look the same,
They all are unique.

(日本語訳) 友だちは花のようなもの
たとえ同じように見えたとしても
すべてユニーク

講評

三行にわたって、花の特徴を述べつつ友達のことを語る比喻表現が上手いです。まず一行目で友だちは花のような存在と述べ、二行目で花と人間の共通の特徴を述べています。つまり同じように見えるかもしれないと述べ、三行目でそれぞれがユニークで決して同じではないと言い切ります。

高校生の部 1位 Ridwan Shiekhさん

(原 文) Sharing is friendship
Moon and Sun are best of friends
They take turns to shine

(日本語訳) 友情は共有すること
月と太陽は最高の友
彼らは交代で輝くのです

講評

月と太陽の動きの連結を、作者は友情に置き換えてイメージを上げているのが素晴らしいです。月と太陽が共有するものは自然の環ですが、それを最高の友達に置き換えています。三行目のThey take turns to shine(彼らは交代で輝くのです)は、太陽と月の環が、環と和になって友情に昇華しています。

大人の部 1位 Clayton Schanilecさん

(原 文) Gray clouds smother me
Your smile pops my windows
Tender light flows in

(日本語訳) 私を気詰りさせる灰色の雲
あなたの笑顔が私の窓にはじける
流れ込む優しい光

講評

friend友達という語彙はどの行にも入っていませんが、友達のことを述べています。気分の陰鬱な時も君の笑顔が窓に弾ける。そして窓に流れ込む優しい光。とても心が安らいで幸せな気分になる作品ですね。三行ともにsmothe(厚く包む) —pop (はじける) —flow (流れる) といった動詞が使われていますが、三方方向に動くのではなくて、しっかりと場面構成を作る動詞としての作用が面白いです。

※吉村 侑久代：文学博士。元朝日大学教授・元岐阜保健大学教授。英語俳句の会Evergreen, Silver Gifu, Ibuki, Cosmos主宰。
本協会の英語俳句コンテストの作品審査（翻訳・講評）を担当。専門：R・H・Blyth研究 海外における俳句の定着と変容

※総評及び講評は一部抜粋

通訳ボランティア制度・活動団体を紹介します!

通訳ボランティアにご協力ください!

あなたの外国語の語学力を生かして、茨木市の地域国際化にご協力ください!

日本語が不慣れなため、行政手続き等で困っておられる外国人の方々のため、本協会には「通訳ボランティア登録制度」があります(^^)!!ご登録いただいた後は、ご都合に合わせて無理なく活動していただけます♪

英語以外にも、ベトナム語、ウクライナ語、ロシア語など、様々な言語で登録受付中です!少しでも関心をお持ちの方は、ぜひ本協会までお問い合わせください☆

通訳内容 ▶ 行政手続きや行政に関する相談の通訳や、チラシ等の翻訳(日本語から外国語への訳)

対 象 ▶ 日本語・外国語の読み書き・日常会話ができ、手続き等の通訳やチラシの翻訳ができる方

登録方法 ▶ 登録申請書にご記入いただき、窓口・メール・FAXで、茨木市国際親善都市協会事務局までご提出ください

ご登録いただくと、必ず依頼を引き受けなければならないわけではありません。まずご都合をお伺いし、活動に関しての日時や期間など相談にも応じます♪



WE ARE FRIENDS!

「WE ARE FRIENDS!」では、ゲームなどを通して英語に親むことができます♪ハロウィンパーティーやクリスマスクラフトなど、楽しいイベントが盛りだくさんです(*^▽^*)外国の文化も知ることができますし、新しいお友達もたくさんできちゃいます☆英語って苦手だなあ...というお子さんも、日本人スタッフが優しくサポートしますので、お気軽に遊びに来てくださいね!

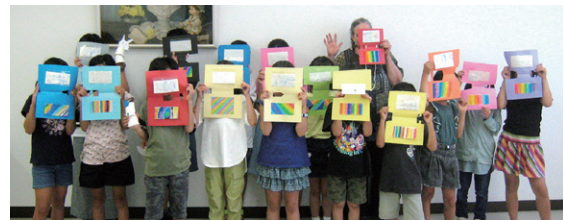
講 師 ▶ ^{ひさのり}久徳ウエンディ先生

日 程 ▶ 原則2,4,6,8,10,12月の第3日曜日

対 象 ▶ 小学3年生～中学3年生

参 加 費 ▶ 一人300円(協会会員は無料)

申込方法 ▶ 偶数月初めから本協会事務局まで電話または偶数月の市広報誌に掲載している二次元コードで申込み



Making Toys(おもちゃをつくろう)というテーマで、カメラを作りました♪みんなでパシャ!

Ibaraki Intercultural Network(IIN)

姉妹都市活動室(IIN)

姉妹都市活動室では、各国からゲストを招き英語でのスピーチを聞く例会を行い、国際交流を深めるための英語力を養っています♪また、茨木市の各名所の歴史を紐解き、その所以や由来などを英語で伝えられるよう、たくさん調べて積極的に活動しています!ぜひ一緒に活動してみませんか?

Zoomを活用してミネアポリス市とオンラインで繋ぎ、定期的にミーティングを行い、日本文化を伝えたり、茨木市を見どころを紹介したり、姉妹都市交流も楽しみながら継続中☆

例会日程 ▶ (8月を除き毎月実施)
第1木曜日: 9時30分～11時30分
第3土曜日: 14時～16時

場 所 ▶ 茨木市立男女共生センター等

年 会 費 ▶ 2,500円(入会の際には、本協会の会員になる必要があります)

ホームページ <http://www.ibaraki-city-iin.com/>

学生、留学生、地域在住の外国人の皆さんも、どうぞお気軽にご参加ください(*^▽^*)

実用日本語学習会

日本語を母語としない方を対象に、基本的にマンツーマンで日本語学習の支援を行っております。マンツーマンだからこそ、いつでも、だれでも、自分のレベルに合わせて学習を始めることができます♪

オンライン学習と対面学習での学習会を実施しています!(^_^)!

日本語を勉強したい外国人の方、日本語学習の支援を求めている外国人をご存知の方、ぜひお気軽にお問い合わせくださいね。お待ちしております!

と き ▶ 木曜クラス: 13時30分～15時00分
金曜クラス: 10時00分～11時30分
※オンライン学習の授業時間は60分

と ころ ▶ クリエイトセンターまたは
茨木市立男女共生センター(対面学習の場合)

ひ ょ う ▶ 学習者2,000円(1期1クラス分)
※テキストは実費です。

ホームページ <http://www.ibaraki-nihongo.sakura.ne.jp/>

※内容に変更がある可能性があります。詳しくはお問い合わせください。

●通訳ボランティア制度・各活動団体について、れんらくするところ

茨木市国際親善都市協会事務局 TEL 072-620-1810 FAX 072-622-7202 mail: cadifai@city.ibaraki.lg.jp

茨木市国際親善都市協会のホームページをご覧ください!!

協会ホームページでは、「新着情報」・「募集情報」など、協会のイベントの情報を発信しています。また、姉妹都市活動室や実用日本語学習会のページ、多言語での情報発信をしているページの情報なども掲載しています。

ぜひチェックしてみてください!

茨木市国際親善都市協会ホームページ
<https://www.ifai.jp/>



MINNIBARAKI に記事を投稿してみませんか?

MINNIBARAKIとはMISCA(ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会)の皆さんが作成されているニュースレターのことです。現在2月、5月、8月、11月の年4回発行されています。協会会員の皆様もミネアポリス市のみなさんにメッセージを送ってみませんか?

ミネアポリス市との交流に関すること、日本文化の紹介、ご自身の国際体験など、ミネアポリス市のみなさんに読んでもらいたい内容なら何でもOK! 写真を一緒に掲載することもできます♪なお、応募原稿は全て英語でお願いします☆皆様からのご応募お待ちしております♪

応募方法 申込書・応募原稿を協会事務局へメールで提出(申込書は協会HPからダウンロード、または窓口で配布)

応募締切 各号の3か月前の月末(例: 11月号への応募なら8月末まで)
 ※発行状況によって変更になる可能性があります。

応募原稿について詳しくは本協会HPのMINNIBARAKIのページをご覧ください。▶



茨木市国際親善都市協会 会員募集!!

本協会では、茨木市の姉妹・友好都市をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方の入会をお待ちしています。

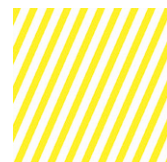
会員のみなさまには、協会が催す交流行事のご案内や、協会主催事業への参加費の一部助成、また、年2回発行する協会報を送付しております。

主な活動内容	国際交流の集い
	姉妹・友好都市への市民親善訪問 中・高校生の「英語スピーチ大会」など
年会費	個人会員:(一般) 2,000円 (学生) 1,000円 団体会員: 一口5,000円
	申込先 本協会事務局(茨木市市民文化部文化振興課内) TEL 072-620-1810
協会ホームページ: https://www.ifai.jp/	

編集・発行

茨木市国際親善都市協会

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8番13号 茨木市市民文化部文化振興課内
 TEL.072-620-1810 FAX.072-622-7202 ホームページアドレス <https://www.ifai.jp/>



次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。